

Mastery for Service

# 母校通信

2022  
Spring  
149号

〔巻頭企画〕

仏教、神道、  
キリスト教から見る  
コロナの時代



重要なお知らせ ※詳細は25ページ参照

次号(150号)から 終身会費完納者のみにお送りします



関西学院同窓会



# 仏教、神道、 キリスト教から見る コロナの時代

様々な価値観が錯綜する今の時代に  
宗教は意味や力を持つことができるのだろうか？

関西学院という同じキャンパスで学んだ

3人の宗教家に集まっていたとき、

この大きなテーマのもと大いに語っていただきました。

2021年11月17日(水)

関西学院会館「禅の間」にて



関西学院会館 西側の竹林の小径にて



宮司  
江田 政亮

1991(H3)年、社会学部卒業。高校・大学時代はアメリカンフットボール部に所属。卒業後は産経新聞社に入社。1993(H5)年より貴布禰神社第17代宮司。



貫主  
前田 泰道

1976(S51)年、高等部卒業。1982(S57)年京都大学文学部卒業。同年4月、和歌山県紀三井寺副住職となり、2017年より同寺第15代貫主。



院長  
舟木 譲

1968(S63)年、神学部卒業。同大学大学院神学研究科博士課程前期課程修了。日本基督教団神戸栄光教会の担任教師、関西学院大学経済学部教授(宗教主事)、宗教総主事を経て、2019年より第17代関西学院院長。



司会(編集委員長)  
塚本 恵美子

1968(S43)年文学部卒業。関西学院同窓会常任理事、編集委員長。朗読ボランティアグループ「花かご」代表、朗読講師。

## 関西学院生活で 自然に出会った キリスト教の教え

**塚本** 関西学院を卒業され、現在、仏教、神道、キリスト教というそれぞれ違う宗教に携わる皆様は、宗教観について学校生活のエピソードなどを交えながらお話を伺いたいと思います。まずは自己紹介をお願いします。

**江田** 尼崎にあります貴布禰神社で宮司をしております。関学には中学部からご縁を頂戴しています。小学校は、仁川学院小学校に通っていましたので、そこでカトリック、関学でプロテスタントの教育を受け、16年間キリスト教を学んだ神主です。私の父親も関学卒業生ですし、娘と息子が大学に在籍しています。親子三代、関学にお世話になっています。

**舟木** 2022年3月まで、関西学院の院長という役割を担っています。普段は関西学院大学の経済学部で宗教主事としてキリスト教の授業などを担当しています。出身は京都で、小中高校は公立ですが、幼稚園は知恩院の創立になる華頂短期大学附属幼稚園でしたので、月一度、小さなお数珠を持つてお参りして仏教に触れておりました。

関西学院に来たのは1998年で、その前は京都御幸町教会で3年間、関西学院創立者のW・R・ランバース氏が初代牧師を務められた神戸栄光教会で5年間働きました。

**前田** 和歌山市にございます紀三井寺の住職をしております。西国三十三所という日本で一番古い観音巡礼道の第二番目の札所です。お寺は、一昨年創建1250年目を迎えました。私は親から住職を引き継いだのですが、血の繋がった親子で住職を引き継いだ例は、私の寺では初めてです。私の誕生日が仏縁深い日で、お寺を継ぐしかないといふ頃から言われることがありました。そういうレベルを敷かれた感じにどうも抵抗があつて、高校受験でとにかく外に出てみたいと関学の高等部を希望しました。

**塚本** 学校生活で気づきのポイントみたいなものはありましたか？

**前田** 私は高等部から関西学院でしよつとが、男子校でしたし、カルチャーイオや雰囲気はなく、社会科の授業でも赤穂浪士事件が忠義か、罪かという議論を一月ほどするような授業があつたのですが、関学ならではの授業だったと思えますね。そんな中、私が受験して仏教について学ぶことになったのは、クラスメイトのM君がきっかけです。彼は神戸の教会の息子さんな

のですが、休み時間になると僕に宗教論争を挑んで来ました。こっちは寺が嫌で逃げたところもあつたので反論もできなくてね。ただ、あんまり言われると仏教のことを弁護したくなるもので、大学で仏教の勉強をしたくなりましたね。彼に会つたおかげで今があるのかもしれない(笑)。

**江田** 私は、今でも誇れることがあります。中学部在学中、インドに井戸を贈る献金活動をしていました。3年の時、生徒会役員の一員として、「その井戸をインドまで見に行きたい」と先生に申し入れをし、約40名で訪問しました。今でも中学部の海外交流事業でインド親善旅行が続いているのは、あの時の活動がきっかけになつていて、自慢の一つです。

今は神主をしています。小中高大とキリスト教は身近にありましたし、聖書のマタイ伝7章にあつた「岩の上に家をたてたる」という箇所が好きで、神主・人としての歩みの中でとても大切にしています。というのも、関係性の希薄な中で相手に話を聞いてもらうのは難しいですが、細かい色々と話を大切にして土台を固めてから話すことで伝わりやすくなるからです。聖書の句を基礎に、私の神主人生があるというの、なんとも言えない不思議な感じですね(笑)。



## 若者も必要としている 支え合う身近な宗教



**塚本** 若い人はSNSなどで繋がる今の時代ですが、宗教に対してどういう感覚を持っていると思われますか。  
**前田** 若い人が宗教に興味がないかというところはないかと思えます。初詣のおみくじも長蛇の列になりませんが、ほとんど若い方です。コロナ禍やガソリンの高騰、AIが職業を奪っていくのではないかなど、見通しがつかない世相を若い人は敏感に感じて、答えを出してくる天の声が聴きたいと思っておられるのではないのでしょうか。お葬式や法事など、家の宗教は薄れている気がありますが、個人ではネットやSNSで情報を得て、自分の心の支えにしている状況ではないかと思えます。怖いのは、そういう時にオウム真理教やお金目当ての似非宗教などに引っ張られる傾向もあります。2000年以上の歴史を持つ宗教に携わる者としては、声を大にして、こちらからコンタクトすることも必要なのではないかと思えます。

学生と接することが多いかと思えますが、学生の感覚はどうですか？  
**舟木** 宗教が嫌いというよりも、本当の宗教に出会う機会がないという学生が多いように思います。キリスト教では客観的に、学問的に気づきを伝え、チャペルアワーではスピリチュアルと言いますか心でメッセージを聞き、賛美歌を歌い、両面からキリスト教にアプローチできるようになっています。学生に感想を書いてもらおうと個々に悩みを抱えていまして、そういうところに共感したり、寄り添うことが必要ですね。そういうことは宗教がずっとやってきたことですが、今の時代だからこそより必要じゃないかと思えます。

いるのかなと思えますね。そういう時代に宗教者の方から打って出るようなことは考えておられますか。  
**江田** それぞれの神社には「氏子地域」という担当があるため、広く打って出られないのが弱点です。全国の神社を包括する神社本庁が代表して、神社の考えなどを発信するように取り組んでいただけると、安産祈願や初宮詣で宝塚の中山寺さんに完敗するようなこともないかもしれませんね。(笑)  
**塚本** 日本人は、色々なことを同時に受け入れられる資質があって、あまり神社やお寺を分けるということもないですね。  
**前田** 日本人はクリスマスイブから一週間で3つの宗教を渡り歩きますよね。イブにはお父さんがサンタになり、大晦日には仏教のお寺で除夜の鐘を撞き、明けて元日には神社に初詣に行きます。道端のお地藏様にも手を合わせ、他者の信仰を非難しない日本人の宗教感覚は、世界に誇ってもいいのではないかと考えています。主たる宗教は、紀元前5〜6世紀頃に起源があります。当時は、貧富の差が生まれ、悪い考えを持つ人が横行し、人間どう生きるべきかという問いに答える宗教が求められました。  
高等部の時に英会話のロス先生がされたお説法に、「私たちは目で物を

見る、でも本当にあなたの目は大事な物を見ているか。私たちは耳で声を聞く。でもあなたの耳は本当に大事なものを聞いているか」というものがありました。仏教でも「心眼心耳」という同じことをいったものがありまして、宗教は底流ではほとんど同じです。  
**舟木** 日本人は村社会の様な共同体で生きてきました。一人では生きていけない、完璧な人はいないので、ある意味お互い様で支え合って生かされていると考えるのでしょね。そして、支えを失った時に、歯止めとなるのが宗教の大きな役割だと思えます。本来は、現場の教会ともっとつながり、一般の人がどう感じているかをリアルに知って、それに応える形であってもいいのではないかなと思えますね。

## SNSで瞬時に 言葉は伝わるが、 真意を伝えるのは 難しい時代

**塚本** 日本人は何でも受け入れられますし、今は情報発信が簡単にできる時代です。宗教としては活用すべき時代ではないかとも思いますが。

**江田** 「神主は言挙げせず」と言いまして、神道には教えがなく、「神様はこうおっしゃっています」とは言えないため、活用にも限界があります。  
**舟木** 今の学生は、テレビも固定電話も持たず、新聞も取らず、見たいものを自分で選んで見に行くという人が多くなっています。新聞やテレビだと、本人の意思に関係なく入ってくる情報の中に気づきがあることもあります。興味のあるものだけを見ますが、複眼的な目を持ってもらうためにはアプローチの仕方を考えなくてはいいですね。

**塚本** 関学のように学校での宗教の時間は、轉りも強くないですし、幅広く宗教の話を開けるのは面白い時間でした。単位をとるための義務ではありましたが、あの時期に色々触れられてよかったです。皆さんのお話を聞いていると影響を受けた聖書の言葉があり、その言葉には力があるように思いますが、仏教や神道はどうでしょうか。  
**前田** 聖書はわかりやすく、誰でも親しめるというのが大きいですね。私どもの寺では、「バリアフリー」という言葉をキーワードにしています。見晴らしや参道を阻害する物や石段をなくすバリアフリーだけではなく、伝道や布教もバリアフリーにしたいと思っています。ただ、

バリアは悪いことばかりではありません。お釈迦様が教えを説かれ、それが日本に伝わるのに千年かかりましたが、バリアによって教えに重みが増えました。今は何かを発信しても地球の裏側に伝わるのも一瞬で、言葉がすくなく軽くなっています。宗教者の言葉は伝わっても、真意は伝わりにくいのではないかと感じています。若い人にどう迫っていくかを試されている時代のような気がしています。  
**舟木** 聖書は、一句の書と言われま

す。それぞれの悩みに対して、聖書でまたまた出会った言葉が大きく刺さることがあります。ただ、宗教改革前はローマ・カトリック教会の考え方が大きな力を持っていましたが、改革後、教派ごとに解釈するようになるというんな解釈が可能になりました。そのため、発信するにしても多様な聖書解釈があるため、正反対のメッセージが出てくることもあり、解釈の問題が宗教を伝える上での難しい壁かなと思えます。



貴布禰神社御社殿と境内



毎年8月2日に斎行される夏季大祭



## つながりの 大切さを再確認 コロナは悪いこと ばかりじゃない

**塚本** 新型コロナウイルス感染症によって疲れが溜まっている人も多いと思いますが、今宗教にできることは何か？コロナとは何か？についてどうお考えですか。

**前田** コロナの影響で大変ではありませんが、コロナの前が良い時代で、コロナから世の中が悪くなったとは思えま



桜の頃の紀三井寺本堂前



2018年3月27日、初午大餅投げ

せん。緊急事態宣言で引き籠ることになり、家族や自分と向き合わざるを得なくなり、孤独を感じる人も当然おられると思いますが、禅語に「独来独去 無一随者」というのがあります。人間は一人で生まれてきて、一人であの世に行く。一人の従うものもないという意味です。人は本来、孤独だということです。この2年は人が孤独に向き合えた時間で、孤独な者同士が励まし支え合って行くのが本来あるべき姿だと気づかされる機会だったかもしれません。コロナも悪いことばかりではない気がしますね。



結婚式で司式をおこなう舟木院長



ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

が、コロナによって自分の国だけが良くてうまくいかず、国や民族、宗教も超えてお互いが支え合って生活していたことを実感したのではないのでしょうか。旧約聖書には、神が土から人間(アダム)を作って、一人でいることがよくないということでアダムのあばら骨からもう一人の「助ける者」が作られます。これは「向かい合う者」とも訳せます。誰一人として一人で生きていけなくて、色々な人と向き合って人格的な交わりをする中で、社会は作られています。コロナをきっかけに真に寄り添い、共感し合う、優しい社会に変えていくきっかけにすることができればいいなと思いますね。

**江田** 神社は今、七五三のお参りでお子様方はハレの日を迎えておられます。民俗学者の柳田國男さんが、非日常を「ハレ」、対して日常を「ケ」と分けられました。コロナ前は、ハレの日ばかりでしたが、コロナでハレの日がなくなり、私たちはその有難さに気づかされました。私の神社も2年続けて夏祭りは中止しましたが、神事のみ行い、日常生活(「ケ」の疲れ(「枯れ」)、つまり「ケガレ(穢れ)」は減りました。神社は最近、お一人でお参りに来られる方が増えました。きっと数百年も変わらずある場所に竹み、気持ちの掃らぎを落ち着けておられるのではないかと思います。神

## 人生の道筋を示す宗教 課題はコロナ以外にも

社に限らず、お寺や教会など、私たちの祖先も心を新たにしていた場所に足を運んで深呼吸してみると、気持ちも変わるのではないのでしょうか。

**塚本** 大きな力が働いて、立ち止まって人との関係をもっと深く考えなければいけないことを気づかせてくれたコロナ。世の中の流れを変えることはコロナにしかできなかったことかもしれないですね。今後の取り組みや同窓生へのメッセージがございましたら、お願いいたします。

**前田** SDGsという運動は、気候変動や環境破壊、資源の無駄遣いなどを子や孫の世代に引き継がないための取り組みです。ケニアの活動家であるワンガリ・マタイさんが「もったいない」という言葉をスローガンにされましたが、これには物の価値や能力を十分生かしていないという意味もあると思います。物や環境のことについて宗教家は門外漢ですが、例えば家庭内の虐待やDV、学校内のいじめももったいないことをしていると思います。加害者は被害者だけでなく自らを貶め、もったいないことになっ

ていると思います。誰もが周りの人が輝けるようにと心を砕きだすと、周りには笑いが生まれ、自らも生きやすい環境を作ることできます。そこに宗教家なりのSDGsがあるような気がします。

**舟木** 関西学院を創った教派は、メソジストというイギリスで誕生したもので、社会福祉的な活動もやっています。関西学院も当初からボランティアの伝統があつて、その先には、人は皆、無条件に神様によって愛されている存



在だというキリスト教のメッセージがあります。存在しているのに、存在していないかのように扱われているような無国籍者の問題、日本語が話せない外国人問題など、我々が気づきにくい課題を明らかにして、全てのものが神様から愛されていることを発信していく義務があります。

**江田** 私は40歳過ぎから、浄土真宗のお坊さんと、まちづくりの仕事をしている関西の後輩とで盛り上がった居酒屋での宗教談義を、地元FMラジオで始めました。途中から中部宗教主事の福島旭先生に参加していただき、世界初の仏教・キリスト教、神道の宗教者が同時に語る番組になりました。その番組で私は、他宗教のことや宗教者の取り組みなどを学びなおすことができました。何を伝えたいかと言いますと、いつまでも学び続けて欲しいということです。一年の経過を年々早く感じてしまう方が多いと思いますが、インプットよりもアウトプットが増えるようになってしまふという説があります。「学び」を大切に、一年をゆつくり感じるようにしていただければと思います。

**塚本** 興味深いお話を沢山聞かせて頂き、有難うございました。コロナも悪いことばかりではなく、私たちに立ち止まって考える時間を与えてくれたようにも感じられました。